

③ 第一に内供の考えたのは、この長い鼻を実際以上に短く見せる方法である。これは人のいないときに、鏡へ向かって、いろいろな角度から顔を映しながら、熱心に工夫を凝らしてみた。どうかすると、顔の位置を変えるだけでは、安心ができなくなって、頬杖をついたり顎の先へ指をあてがったりして、根気よく鏡をのぞいてみることもあった。しかし自分でも満足するほど、鼻が短く見えたことは、これまでにただの一度もない。時によると、苦心すればするほど、かえって長く見えるような気さえした。内供は、こういうときには、鏡を箱へしまいながら、今さらのようにため息をついて、不承不承にまたもとの經机へ観音經を読み帰るのである。

それからまた内供は、たえず人の鼻を気にしていた。池の尾の寺は、僧供講説などのしばしば行われる寺である。寺の内には、僧坊が隙なく建て続いて、湯屋では寺の僧が日ごとに湯を沸かしている。したがってここへ出入する僧俗の類も甚だ多い。内供はこういう人々の顔を根気よく物色した。一人でも自分のような鼻のある人間を見つけて、安心がしたかったからである。だから内供の目には、紺の水干も白の帷子も入らない。まして柑子色の帽子や、椎鈍の法衣などは、見慣れているだけに、あれどもなきがごとくである。内供は人を見ずに、ただ、鼻を見た。——しかし鍵鼻はあっても、内供のような鼻は一つも見当たらない。その見当たらないことが度重なるにしたがって、内供の心はしだいにまた不快になった。内供が人と話しながら、思わずぶらりと下がっている鼻の先をつまんでみて、年甲斐もなく顔を赤めたのは、全くこの不快に動かされての所為である。

最後に、内供は、内典外典の中に、自分と同じような鼻のある人物を見いだして、せめても幾分の心やりにしようと思っただけのことがある。けれども、目連

本文を読み、空欄に適切な文章・語句を記入しなさい。

第三段落(一四〇頁・二行目、一四二頁・二行目)

自尊心の毀損を回復(一四〇頁・一)するための試み

① 長い鼻を実際以上に短く見せる方法

↓ どうやった？

※成功か失敗か

結果は・・・(しかし)

※自分でも満足するほど、鼻が短く見えたことは、これまでにただの一度もない。(今さらのようにため息をつく)

② 人々の顔を根気よく物色した

↓ なぜ？

から。

※成功か失敗か

結果は・・・(しかし)

※鍵鼻はあっても、内供のような鼻は一つも見当たらない。(心はしだいにまた不快になった)

● 「人々」 ↓ 誰？

※僧か俗か

- () ・ 紺の水干 (を着ている人)
- () ・ 白の帷子 (を着ている人)
- () ・ 柑子色の帽子 (をかぶっている人)
- () ・ 椎鈍の法衣 (を着ている人)



1、次の漢字の中の二字ずつを組み合わせて別の漢字を八字つくってください。

(ただし、部品の漢字は何度使ってもかまいません。)

言・目・足・里・米・白・

平・立・王・各・口・少

2、次にあげる漢字を組み合わせて別の漢字をつくってください。

羽・女・次・灰・忍・白

長・分・弓・山・言・米

① 容 ② 鉞 ③ 風

④ 拡 ⑤ 可 ⑥ 製

つくった漢字は①～⑥の二字の熟語になります。
(ただし、部品の漢字は二度使つことはありません。)

3、

「日本」と「本日」のように、上下を逆にすると別の意味になつてしまふ言葉を、「サカサマ語」と呼んでみようと思ひます。

では、次の①～⑩と、あとの漢字を組み合わせて、「サカサマ語」をつくつてみましよう。

① 戦 () ② 作 () ③ 成 ()

④ 転 () ⑤ 機 () ⑥ 名 ()

⑦ 外 () ⑧ 木 ()

機・材・育・回
国・乱・動・人

4、

では次の漢字を用いて、今度は五組のサカサマ語をつくってください。

年・会・配・読・要

所・解・議・来・分

と

と

と

と

世界史B課題

2CD

- ・世界史の教科書をレポート用紙に写し、内容を理解しなさい。

「ロシア革命（二月革命と十月革命）」

P257 8行目～P258 14行目まで

血糖量や体温は一定の範囲に調節されている。これらの調節には自律神経系とホルモンが協調して働いている。血糖量や体温の調節はどのように行われているのだろうか。

血糖量の調節

① 脳は血糖のみをエネルギー源としている。

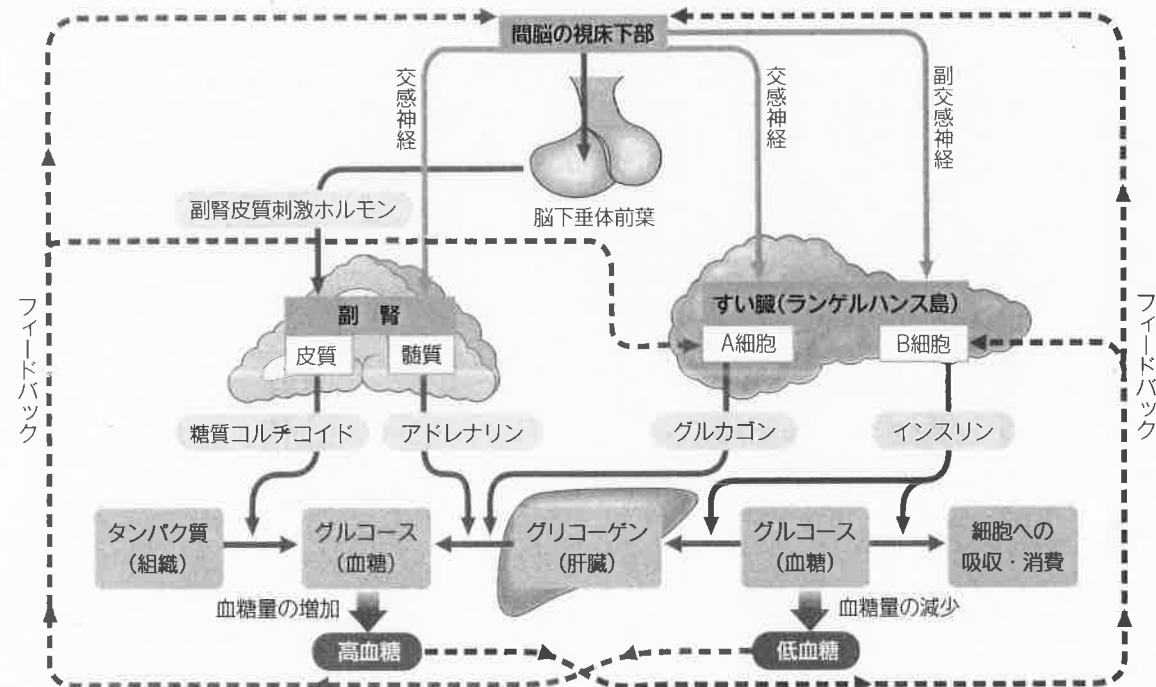
② 血液 100 mL 中の血糖量 (mg) を血糖値という。

③ 血糖量を減らすホルモンはインスリンのみである。

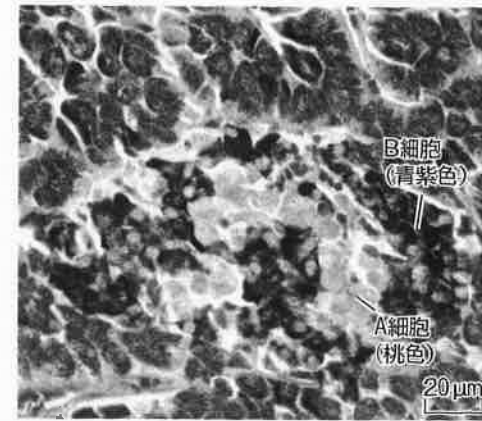
④ 交感神経はグルカゴンの分泌も促す。

血液中のグルコースを **血糖** という。血糖は細胞のエネルギー源で、ヒトでは、空腹時で血液 100 mL あたり約 100 mg (約 0.1%) に調節されている。血糖量が少なくなりすぎると、命にかかわることもある。

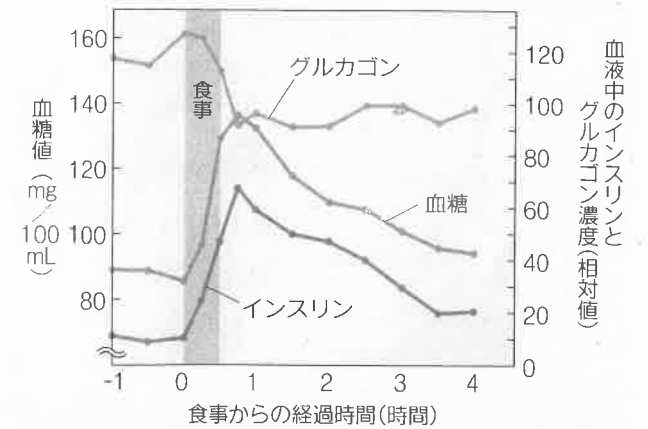
血糖量が増加すると、すい臓の **ランゲルハンス島の B 細胞** がこれを感知して **インスリン** を分泌する。同時に、視床下部もこれを感知して、副交感神経を通じてランゲルハンス島の B 細胞のインスリン分泌を促す。インスリンは血糖の細胞へのとり込みや、肝臓でのグリコーゲン合成を促進して血糖量を減少させる。逆に、血糖量が減少すると、ランゲルハンス島の **A 細胞** から分泌される **グルカゴン** や、交感神経の刺激で副腎髄質から分泌される **アドレナリン** が **グリコーゲン** を分解する反応を促す。また、副腎皮質刺激ホルモンによって副腎皮質から分泌される **糖質コルチコイド** は、タンパク質を糖化することで血糖量を増加させる。



▲図25 血糖量調節のしくみ



▲図26 ヒトのランゲルハンス島



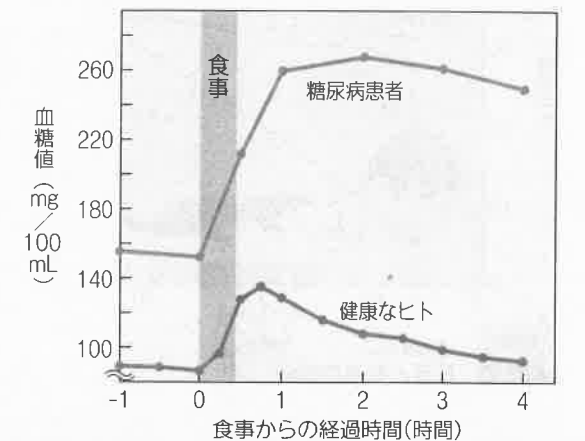
▲図27 食事後の血糖値とホルモン分泌 食事後、血糖値が上昇すると、血糖量を増加させるグルカゴンが減少し、血糖量を減少させるインスリンが増加して、しだいに血糖値は正常に戻る。

糖尿病とインスリン

血糖量の多い状態が長く続く病気が **糖尿病** である。血糖量が腎臓の再吸収の能力をこえると、尿中にグルコースが排出されてしまう。

血糖量を減少させるホルモンはインスリンのみであるため、インスリンの分泌量が減少したり、作用に異常が生じたりすると、それが血糖量の増加となって現れる。

何らかの原因でランゲルハンス島 B 細胞が破壊されてインスリンが不足する場合は **I 型糖尿病**、標的器官のインスリンに対する感受性が低下する場合は **II 型糖尿病** という。



▲図28 健康なヒトと糖尿病患者における食事後の血糖の濃度変化

⑤ I 型糖尿病とは別の理由で、インスリンの分泌量が減少することが原因となる場合もある。

POINT

- ・血糖量は、自律神経系やホルモンによってほぼ一定に保たれている。
- ・糖尿病は血糖量の多い状態が続く病気である。

TOPIC 糖尿病

日本の糖尿病患者とその予備群は、合わせて 2000 万人以上といわれており、その 95% 以上が II 型糖尿病である。高血糖が続くと、毛細血管が傷つき、目の網膜、腎臓、末梢神経などに障害が起こる。糖尿病治療の基本は、バランスのよい食事を規則正しくとり血糖値の上昇を抑えること、そして、適度な運動で血糖を代謝し、血糖値を下

げることである。また、インスリンが不足する場合は注射によって補うこともある。



インスリン注射